

道 第 458 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 金井 道夫 様

白山市長 角 光 雄



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記の件ついて
は、別紙のとおり提出します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

石川県白山市

道路中期計画(案)の中では、4つの項目で整理されていますが、この項目が地方において大変重要である。

1、「国際競争力の確保」、「地域の自立と活力の強化」では、これまで整備されている高規格道路、地域高規格道路への結節を早急に進めなければ、道路整備効果が発揮出来ないばかりか、地方と地方、地方と主要都市とのネットワークが遅れ、ますます地方の経済発展が遅れることから、早期整備が必要。

2、「安全・安心の確保」では、近年多くの自然災害が発生しており、災害時に対応するバイパス道路の整備や橋梁の耐震化が必要である。

近年の交通事故は歩行者(夕・夜間)の事故及び自転車と車の接触事故が増加しており、危険性の高い通勤通学路の交通安全対策の早期整備。

交通車両の増加により、道路寿命が来ており、維持修繕箇所の増加及び安全施設の設置など、それぞれの地域性を考慮した維持管理が必要であり、地方では市町村単独費で改修しているが、今後これに対応した財源の確保(補助制度の確立)が必要である。

3、「環境の保全と豊かな生活環境の創造」では、

高齢者や障害者はもちろん、近年は健康増進のためのウォーキングなどで、誰もが安心してスムーズに歩行できるような歩道整備(段差解消及び幅の広い歩道整備)の要望が地域より出ている。

市街地におけるまちなみづくり街道などによる電線共同溝による無電柱化

②ー1 地域の現状と抱える課題

石川県白山市

○現状

- 平成12年の交通バリアフリー法施行以前に整備をした、市街地を中心とした道路に、高齢者、身体障害者や自転車等の通行に際して負担となる歩道などが多数ある。
- 時代による交通量・車両重量の増加等の交通状況の変化から、道路の破損や劣化が急速化している。
- 在来線（北陸本線）を横断する踏切り道の改良について、北陸新幹線整備事業をきっかけとして、地元からの要望が多くある。
- 冬季道路除雪の委託業者と機械の確保が困難になってきた。

○課題

- 今年6月1日の道路交通法改正から交通弱者の自転車が歩道を通行できることや、急速な高齢化の進展から、道路のバリアフリー化が市民から多く求められてきている。
- 道路補修や橋梁修繕などの改修サイクルが短くなり、維持管理費の増加が将来に向けて心配される。
- 踏切り道の拡幅のみなど、小規模（点的）な事業がこれから計画され、補助事業の採択条件を満たさないことから、財源が不足する。
- 公共事業の縮小などから、建設業者の保有機械数が減少し、また、暖冬による除雪業務の収支から請負ばなれの傾向にある。
さらに、市有の機械の管理費負担から、今後、機械のレンタル導入などの検討が必要となる。

②ー2 地域の目指すべき将来像

石川県白山市

1「地域高規格道路金沢外環状道路(海側幹線)の整備」について

海側幹線については、国道8号及び主要幹線道路の慢性的な交通渋滞を解消し、白山麓方面及び南加賀地区から県庁等が所在する金沢駅西地区へのアクセス性を高めるためにも、早急な整備が必要であります。

2「(仮称)白山インターチェンジの整備」について

金沢外環状道路(海側幹線)と北陸自動車道を連結し、交通の円滑化と旭工業団地等の物流機能の向上を図る観点からも、北陸自動車道の(仮称)白山インターチェンジの整備は必要不可欠であります。

3「地域高規格道路小松・白川連絡道路(国道360号)の整備」について

東海地方と北陸地方を直結する東海北陸自動車道へ繋がる小松・白川連絡道路による経済、文化、観光等の振興と発展に、白山市民は大きな期待をしております。

4「加賀海浜産業道路の整備」について

(仮称)加賀海浜産業道路は、コマツ粟津工場がある小松市南部から能美市・白山市を通り金沢市までの海岸沿いに多数ある工業団地など、産業振興に大きな役割を果たす拠点を経て金沢港に至る海側を縦貫する幹線軸となる道路として、今後の地域の発展を図るうえで、不可欠な道路です。